

スズメの会話

もう十数年になろうか、冬期間庭先にスズメの餌台を取り付けるのが恒例となった。

早朝スノーダンプを引っ張り出して除雪作業にとりかかると、電線上には数羽のスズメが並んでいる。いつものように、30分から1時間の作業が終わってからの給餌となる。

スズメは分かっているのだろう、その時までじっと待っていてくれる。餌台にはくず米や古米を与えるが、スズメにとっては御馳走である。



早くご飯をちょうだい。

注目すべきはその後の行動である。

私の作業を眺めていた先発隊のスズメは一旦この場から飛び去り、誰もいなくなった。そして数十秒後、なんと何十羽もの仲間を引き連れて現れたのです。

2か所の餌台はあっという間に大混雑に。第2陣、第3陣と増え続け、ついには百羽を超える大群となってしまった。



安売りバーゲンセール of 賑わいだ。



次々と入れ替わり、順番待ちも。

スズメはどのような方法で仲間を呼んできたのだろうか。鳴き声で伝えるか、羽をバタバタさせるなどの行動で知らせているのだろうか。

よく観察していると、夢中に餌を食べている時に何かに驚いたかのように一斉に飛び立ってしまうことが何回もありました。これは危険を察知した誰かの鳴き声により反応したものではないかと思われる。

じっくりと聞いていると、チュンチュン、チュイ、チュチュチュ、チチチ、ヒュンヒュンなど、スズメたちには多様な鳴き声がありました



こぼれた米を一粒残さずに食べていた。



誰かが合図したかのように、一斉に飛び上がった。

うそか本当か、私はこうかなと思うスズメ語を紹介します。

チュンチュン→こんにちは

チュイ→どどこ

チュチュチュ→ご飯の人きたよ

チチチッ→逃げろ

ヒュン、ヒュン、ヒュン→ご飯ちょうだい、ご飯ちょうだい